

KURASU TSURUGA

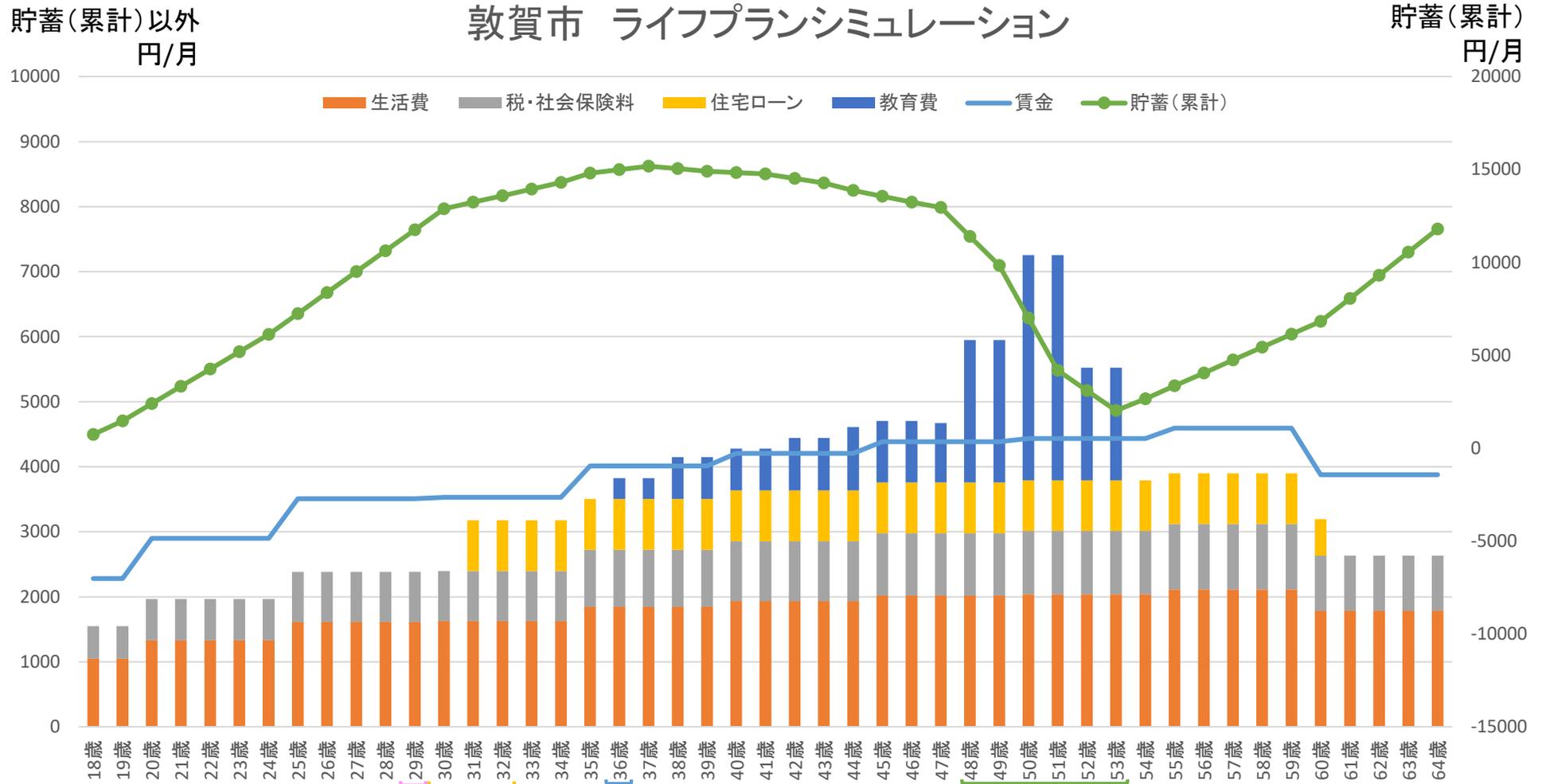
改修に向けたデータ集

～都市部との暮らしと働き方の比較分析～

令和 6 年 9 月
人口減少対策室

1 暮らしに関する比較分析

1. 暮らしに関する分析 (1) ライフプラン ① 敦賀市のライフプランシミュレーション



【結婚】
29歳で結婚

【出産】
30歳で第1子出産
32歳で第2子出産

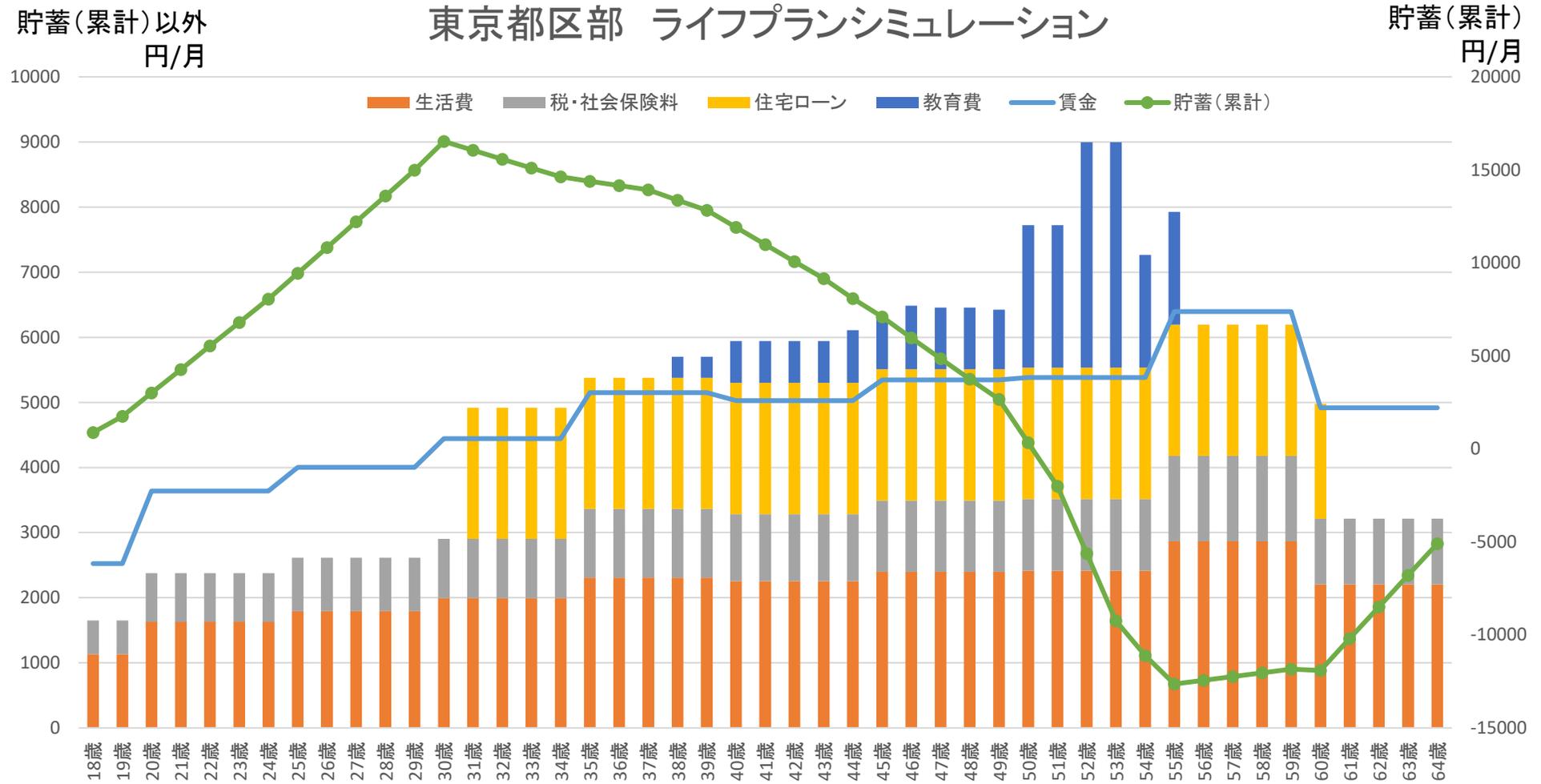
【住宅購入】
30歳で分譲マンション購入

【就学開始】
36歳で子ども達が
就学開始

【大学就学】
48歳で第1子大学入学
50、51歳で子ども2人大学

- 東京都に比べて賃金が低いが、住宅価格が低く、住宅ローンが低く推移している。
- その結果、貯蓄（累計）は、子ども2人が大学進学時のときでも、黒字を継続している

1. 暮らしに関する分析 (1)ライフプラン ② 東京都のライフプランシミュレーション



【 結 婚 】
30歳で結婚

【 出 産 】
32歳で第1子出産
34歳で第2子出産

【 住宅購入 】
30歳で分譲マンション購入

【 就学開始 】
38歳で子ども達が
就学開始

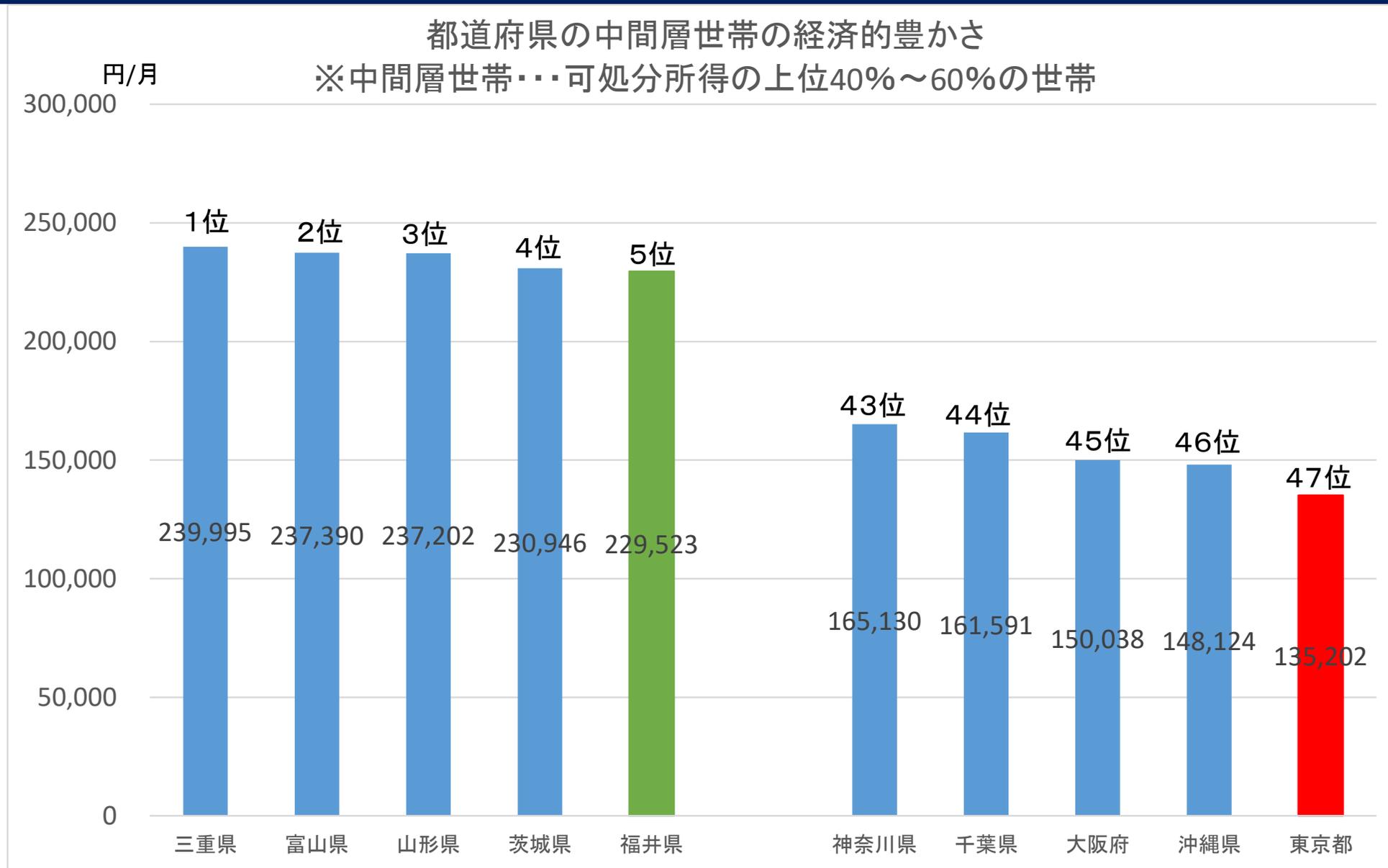
【 大学就学 】
50歳で第1子大学入学
52、53歳で子ども2人大学

- ・ 敦賀市に比べて賃金が高いが、住宅価格が高く、住宅ローンが高く推移している。
- ・ その結果、第1子が大学入学する50歳から、貯蓄はマイナスとなり、生活不能となる

【 ライフプランシミュレーションの基礎数値 】

区 分	敦賀市のライフプランシミュレーション	東京都区部のライフプランシミュレーション
前 提	<ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業し、敦賀市内に就職 ・29歳で結婚し、30歳で第1子、32歳で第2子誕生 ・30歳で市内で分譲マンションを購入 ・65歳で定年退職 	<ul style="list-style-type: none"> ・高校卒業し、東京都区部に就職 ・30歳で結婚し、32歳で第1子、34歳で第2子誕生 ・30歳で市内で分譲マンションを購入 ・65歳で定年退職
生 活 費	<ul style="list-style-type: none"> ・賃金から税・社会保険料を減じ、「家計調査2023」における<u>敦賀市</u>の平均消費性向を乗じて得た値 	<ul style="list-style-type: none"> ・賃金から税・社会保険料を減じ、「家計調査2023」における<u>東京都区部</u>の平均消費性向を乗じて得た値
税・社会 保 険 料	<ul style="list-style-type: none"> ・家計調査2023における<u>敦賀市</u>の非現金支出の実収入(賃金)に占める割合を①に乗じて算出 	<ul style="list-style-type: none"> ・「家計調査2023」における<u>東京都区部</u>の非現金支出の実収入(賃金)に占める割合を①に乗じて算出
住 宅 ロ ー ン	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅金融支援機構「フラット35」シミュレーションを用い算出。 ・また、住宅価格は、戸建ての場合、同一の水 準・規模の価格差を求めることが困難であるため、「マンションレビュー 2023年2月」における<u>70㎡の福井県の中古分譲マンション価格1,758万円</u>を適用し、30年、元利均等償還とした 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅金融支援機構「フラット35」シミュレーションを用い算出。 ・また、住宅価格は、戸建ての場合、同一の水 準・規模の価格差を求めることが困難であるため、「マンションレビュー 2023年2月」における<u>70㎡の首都圏の中古分譲マンション価格4,569万円</u>を適用し、30年、元利均等償還とした
教 育 費	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼクシィの「子ども1人当たりにかかる費用の目安」を用い、<u>福井県の平均初婚年齢等に基づき、29歳結婚、30歳第1子出産、32歳第2子出産</u>とした 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼクシィの「子ども1人当たりにかかる費用の目安」を用い、<u>東京都の平均初婚年齢等に基づき、30歳結婚、32歳第1子出産、34歳第2子出産</u>とした
賃 金	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年賃金構造基本調査の<u>福井県全産業のうち、企業規模10～99人を使用</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年賃金構造基本調査の<u>東京都全産業のうち、企業規模10～99人を使用</u>

1. 暮らしに関する分析 (2) 都道府県の間層世帯の経済的豊かさ

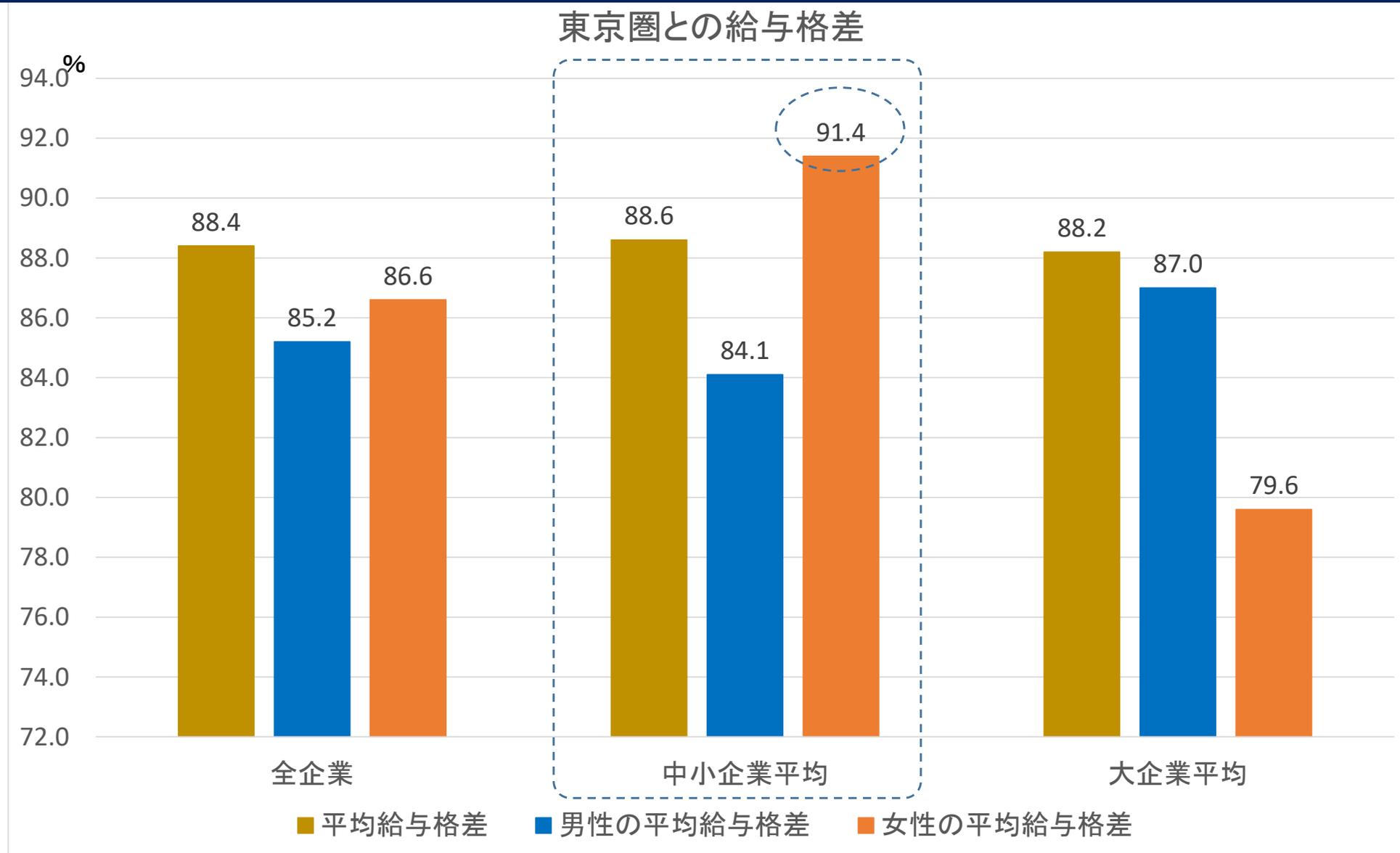


※国土交通省「企業等の東京一極集中に関する懇談会」のとりまとめプレスリリース資料(令和3年1月29日)

- 中間層世帯の経済的豊かさにおいて、福井県は全国5位、東京都は、最下位となっている。
- 平均賃金の順位と異なる結果となっており、この背景には、東京都においては一部の富裕層が平均を引き上げ、中間層が薄い一方、福井県は中間層が厚いことが予測される

2 働き方に関する比較分析

2. 働き方に関する分析 (1)賃金の比較分析

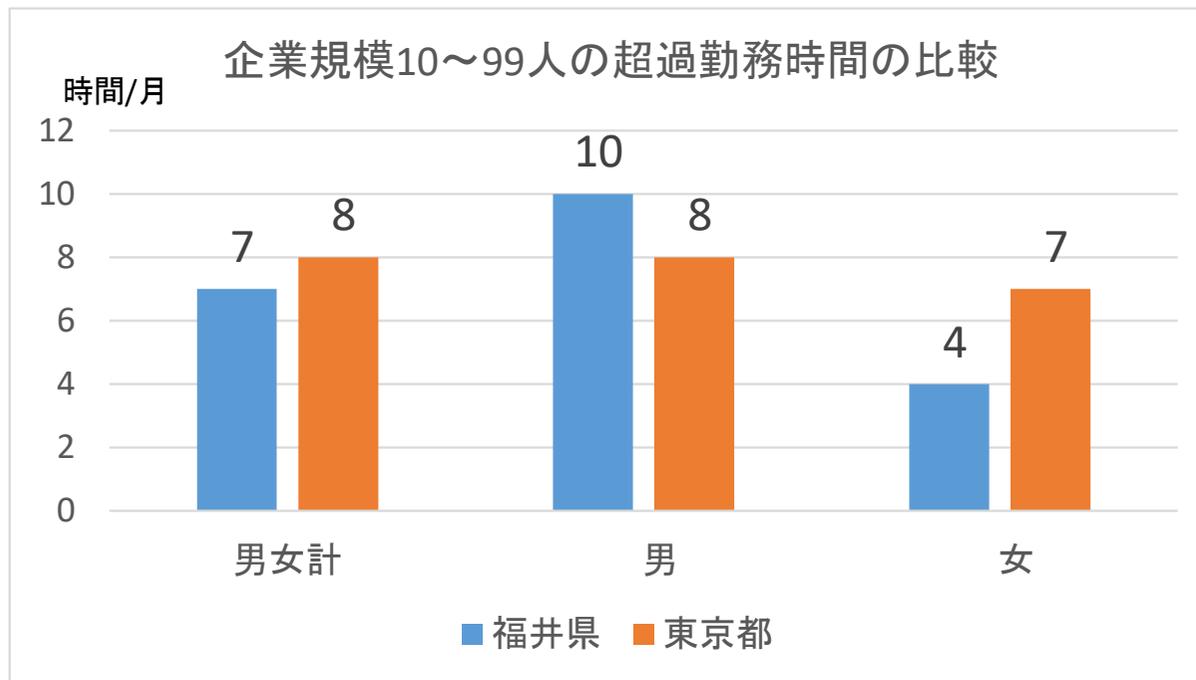


※国税庁「令和4年 民間給与実態調査」

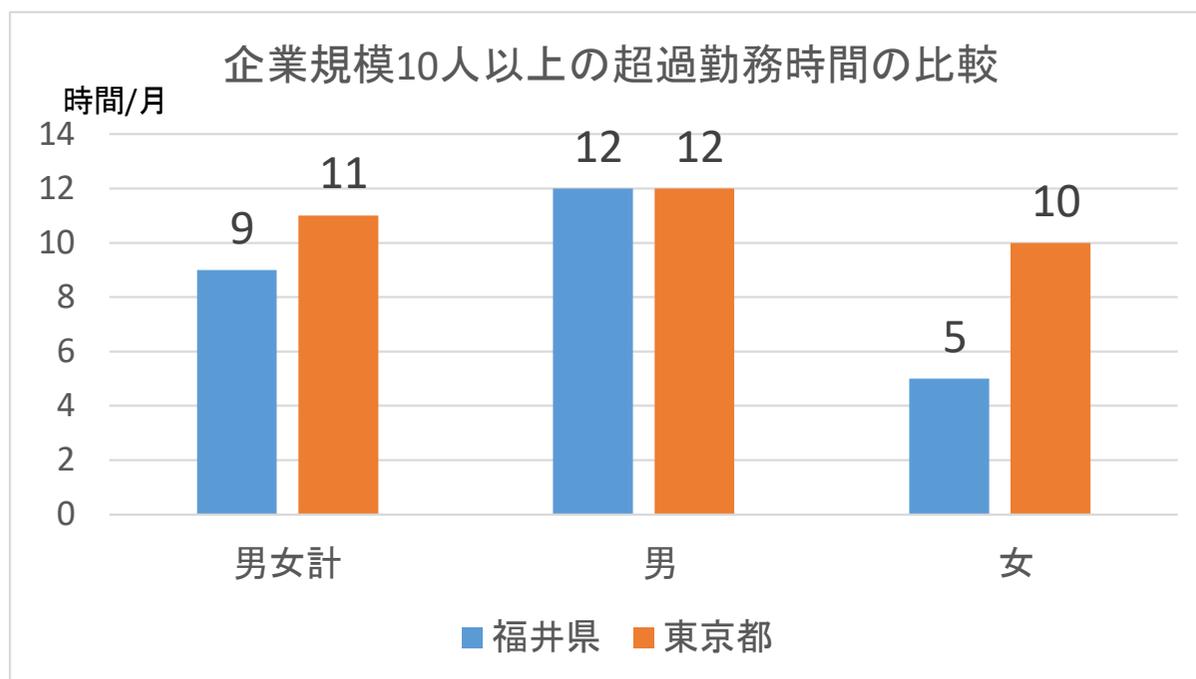
※平均給与格差 = 金沢国税局管轄の平均給与/東京国税局管轄の平均給与

- 企業規模でみると、中小企業が最も東京圏との給与格差が低い
- 特に、女性は91.4%と東京圏とほぼ変わらない給与となっている
- そのため、女性においては地元就職が有力な選択肢となり得る

2. 働き方に関する分析 (2) 残業時間の比較分析

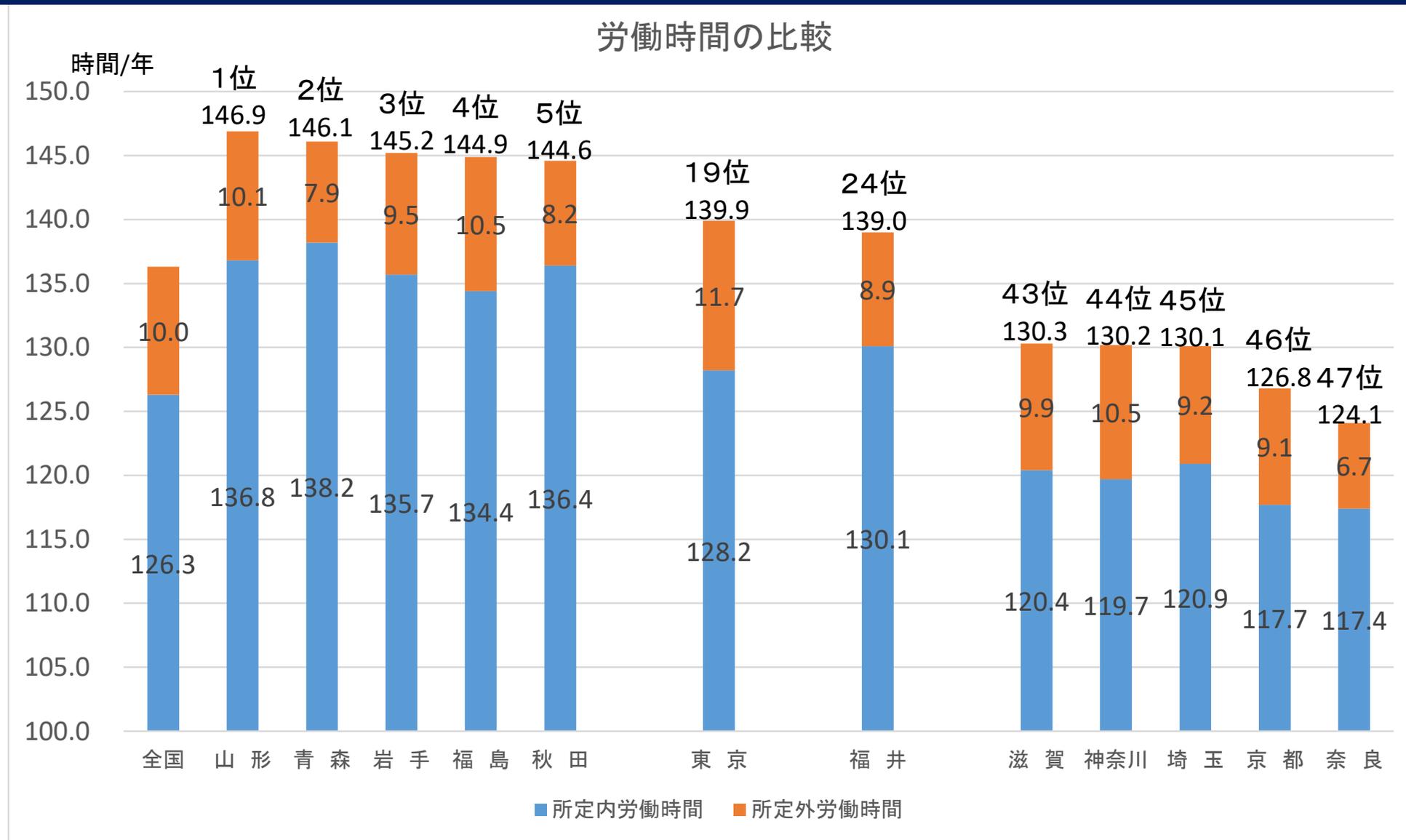


- 企業規模10～99人の企業における超過勤務時間は、全体として、東京圏の方が高い
- 一方、性別で見ると、男性は福井県の方が高く、女性は福井県の方が低い
- 一概には言えないが、福井県の女性の方が、ワークライフバランスがとれている可能性がある



- 企業規模10人以上の企業における超過勤務時間は、全体として、東京圏の方が高い
- 一方、性別で見ると、男性は同等であり、女性は福井県の方が半分の時間である
- 一概には言えないが、福井県の女性の方が、ワークライフバランスがとれている可能性がある

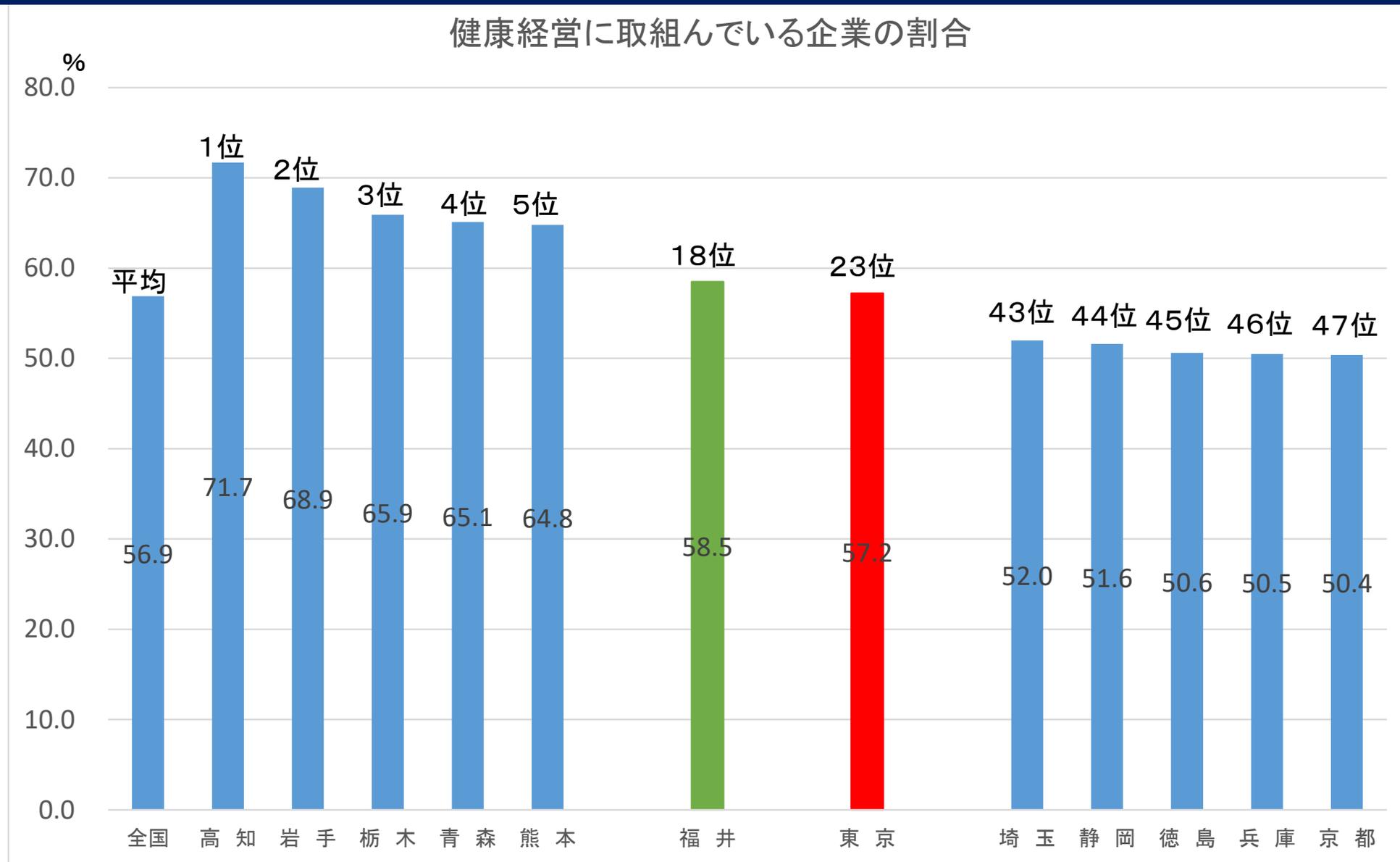
2. 働き方に関する分析 (3) 労働時間の比較分析



※厚生労働省「毎月勤労統計調査地方調査 令和5年平均分結果概要」

- 年間の労働時間を見ると、福井県は、47都道府県中24位の中程度の労働時間となっており、平均を上回るものの、東京を下回っている

2. 働き方に関する分析 (4)メンタルヘルス不調の比較分析



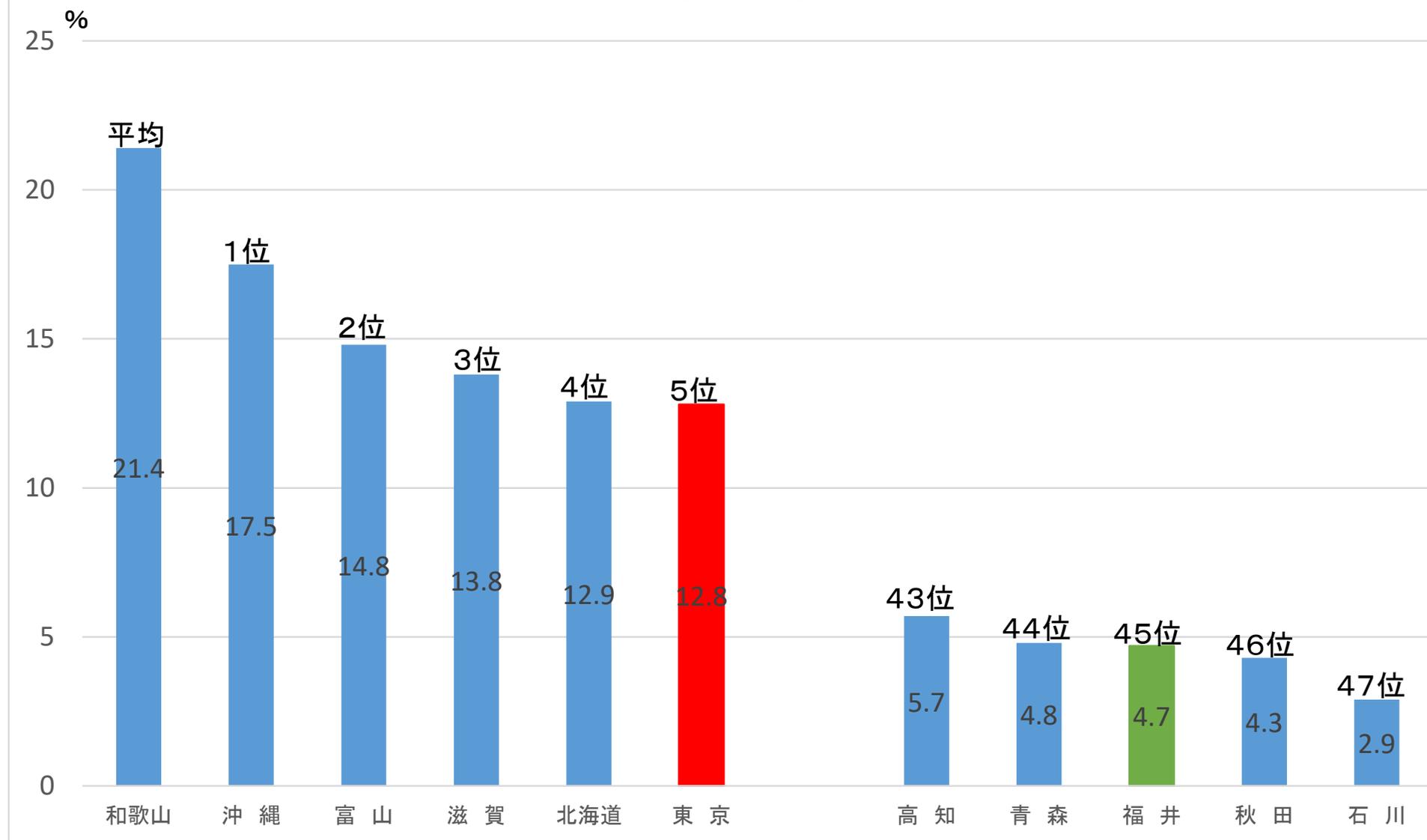
※株式会社帝国データバンク「健康経営への取り組みに対する企業の意識調査」

※株式会社帝国データバンク甲府支店「健康経営への取り組みに対する山梨県内企業の意識調査」

- ・ 従業員等の健康管理を経営的な視点で考え、実践する「健康経営」に取り組んでいる企業は、福井県は58.5%となっており、平均を上回る47都道府県中18位となっている
- ・ 一方、東京は23位で、福井県を下回っている

2. 働き方に関する分析 (4)メンタルヘルス不調の比較分析

過重労働時間となる労働者の割合

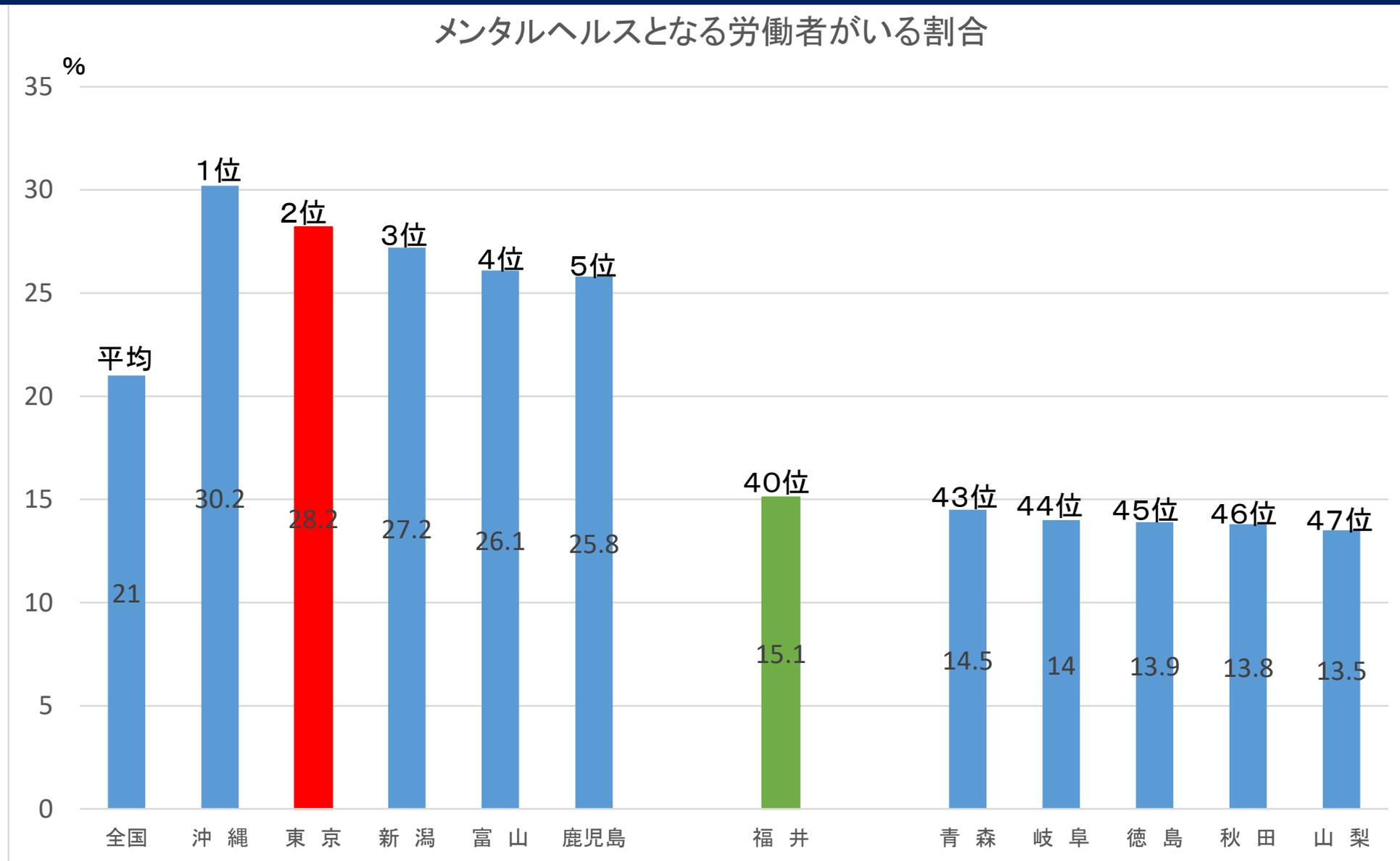


※株式会社帝国データバンク「健康経営への取り組みに対する企業の意識調査」

※株式会社帝国データバンク甲府支店「健康経営への取り組みに対する山梨県内企業の意識調査」

- ・ 過去1年間で過重労働となる労働者がいた割合を見ると、福井県は、4.7%で47都道府県中45位と、非常に低い水準となっている。
- ・ 一方、東京都は、12.8%、5位であり、非常に高い水準にある

2. 働き方に関する分析 (4)メンタルヘルス不調の比較分析

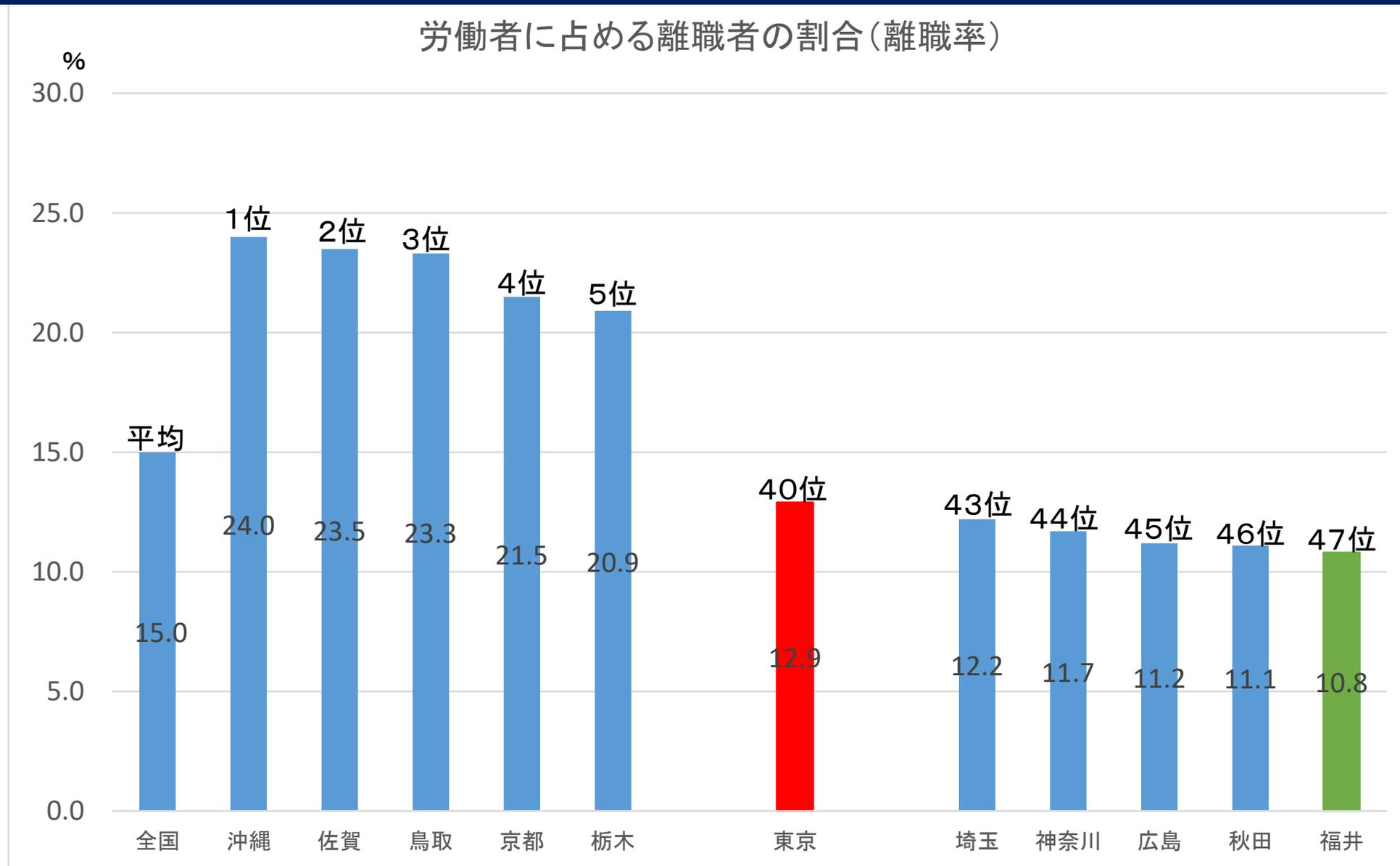


※株式会社帝国データバンク「健康経営への取り組みに対する企業の意識調査」

※株式会社帝国データバンク甲府支店「健康経営への取り組みに対する山梨県内企業の意識調査」

- 過去1年間でメンタルヘルス不調となる労働者がいた割合を見ると、福井県は、15.1%で47都道府県中40位と、非常に低い水準となっている。
- 一方、東京都は、28.2%、2位であり、非常に高い水準にある

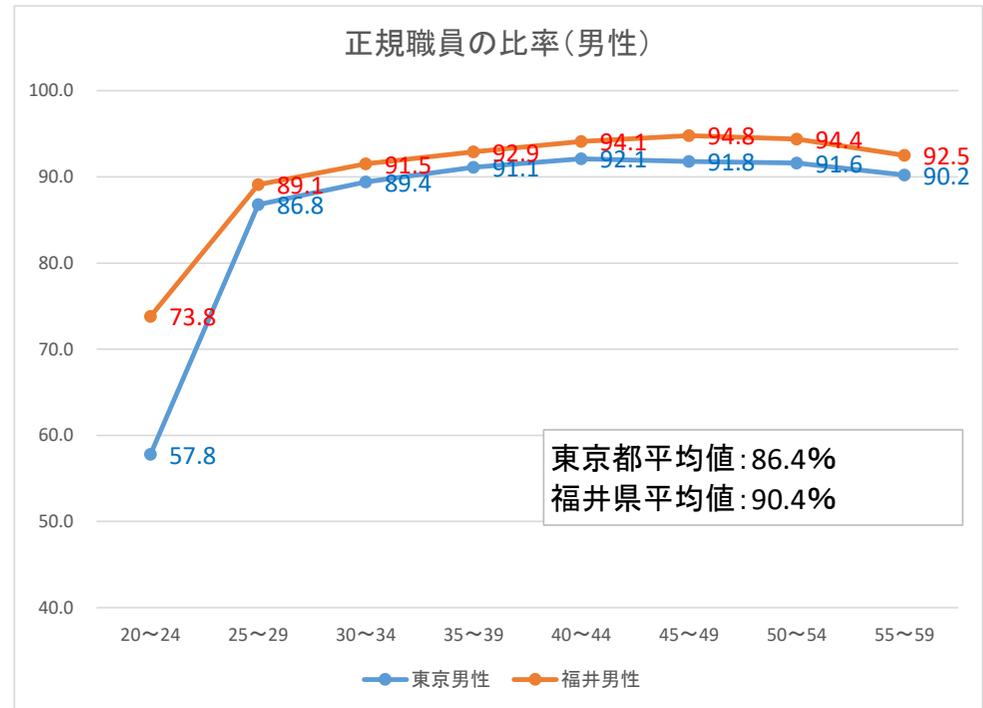
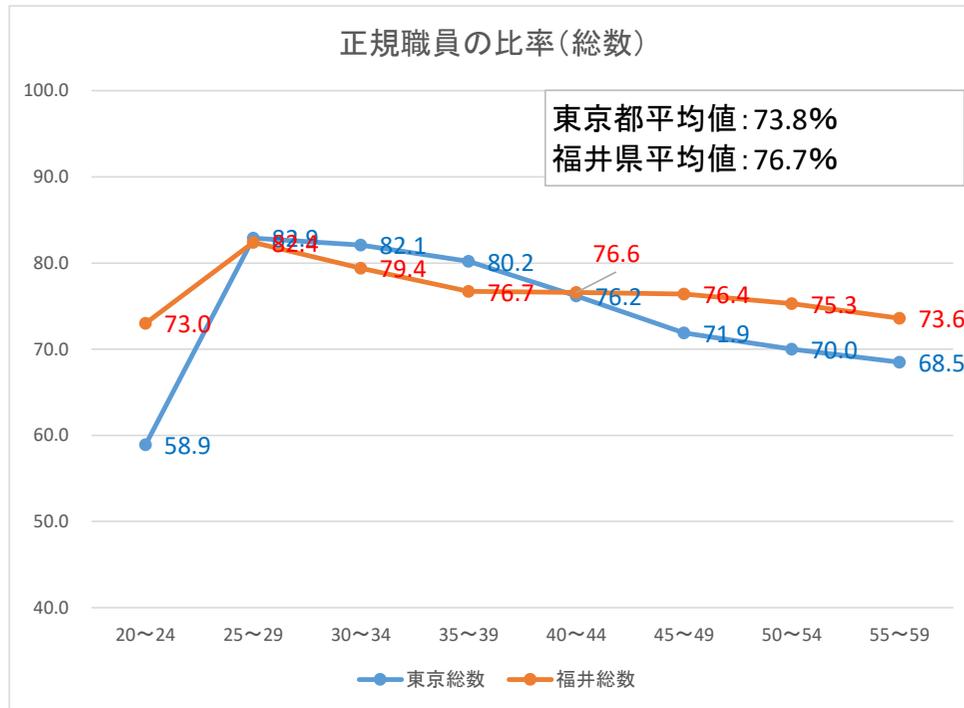
2. 働き方に関する分析 (5) 離職率の比較分析



※厚生労働省「令和4年 雇用動向調査」

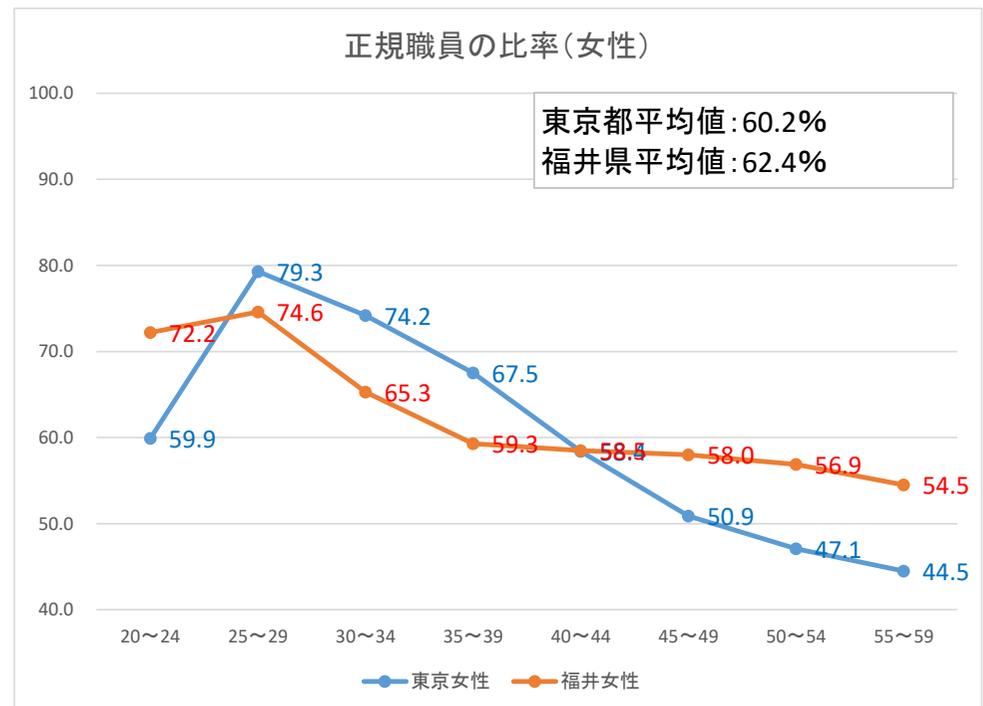
- 労働者に占める離職者の割合である離職率を見ると、福井県は10.8%で、47都道府県中最下位であり、離職率が最も低い状況にある
- 一方、東京都は、12.9%で40位と以外にも低い

2. 働き方に関する分析 (6) 女性の労働環境の比較分析 ① 正規職員の比率

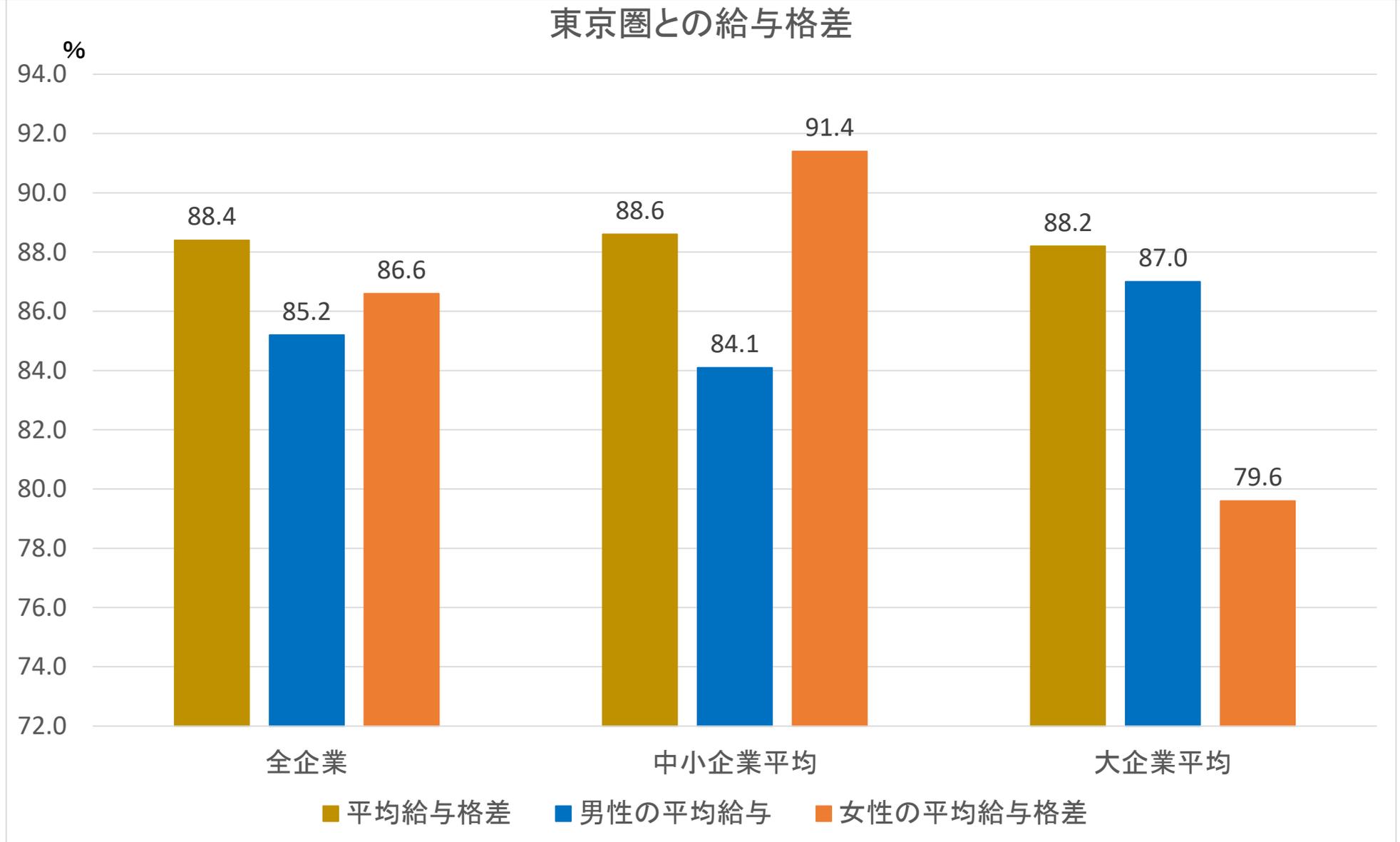


※総務省「令和2年国勢調査」

- 令和2年国勢調査に基づき、就業者数に占める正規職員の比率を見ると、25~39歳までの間は東京都が福井県を上回っている
- また、女性も総数と同じ傾向にある一方、男性は、全ての年代で、福井県が東京都を上回っている
- 全年齢平均値を見ると、総数・男女別のいずれも福井県の正規比率の方が高い
- そのため、福井県の方が、生涯にわたり活躍することができる環境と言える



2. 働き方に関する分析 (6) 女性の労働環境の比較分析 ② 女性の給与格差

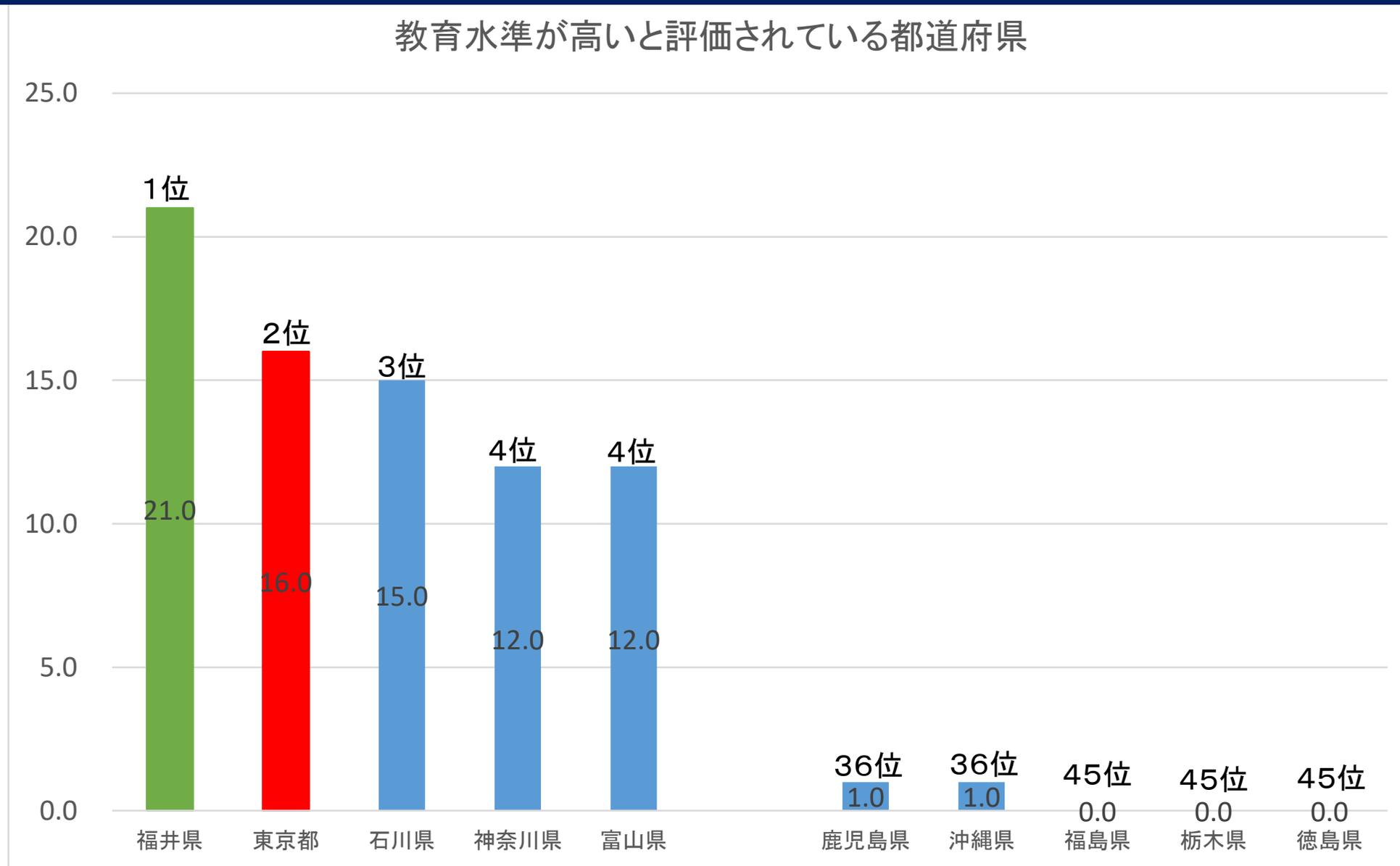


※国税庁「令和4年 民間給与実態調査」

※平均給与格差 = 金沢国税局管轄の平均給与/東京国税局管轄の平均給与

- 企業規模でみると、中小企業が最も東京圏との給与格差が低い
- 特に、女性は91.4%と東京圏とほぼ変わらない給与となっている
- そのため、女性においては地元就職が有力な選択肢となり得る

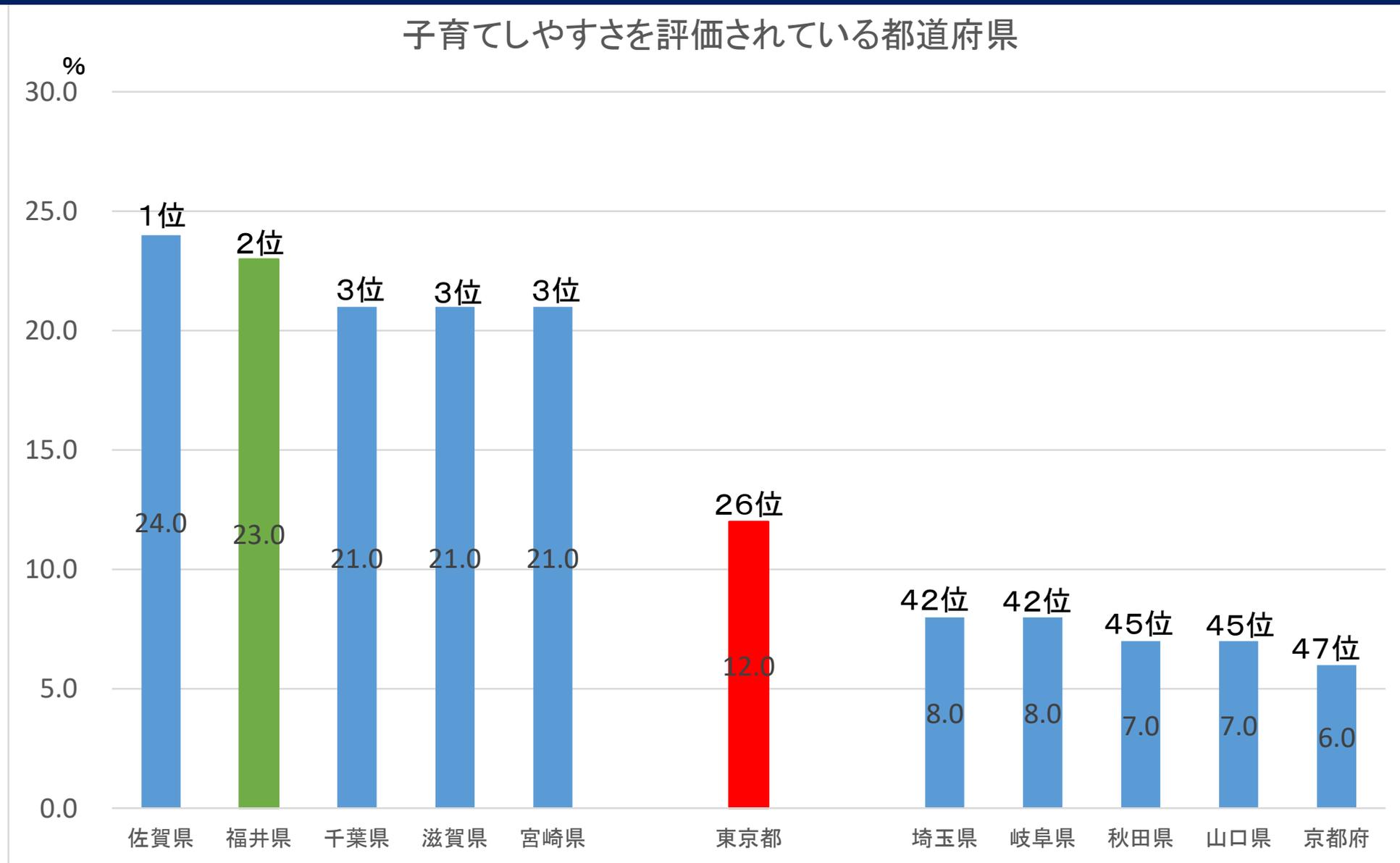
2. 働き方に関する分析 (7) 子育て・教育環境の比較分析



※ソニー生命保険株式会社「47 都道府県別 生活意識調査2023」

- 教育水準の高さを評価されている都道府県として、福井県は47都道府県中1位であり、最も高い評価を受けている
- また、東京都は2位であり、非常に高い評価となっている

2. 働き方に関する分析 (7) 子育て・教育環境の比較分析



※ソニー生命保険株式会社「47都道府県別生活意識調査2023」

- 子育てしやすさを評価されている都道府県として、福井県は47都道府県中2位であり、非常に高い評価を受けている
- 一方、東京都は26位であり、中程度の評価に留まっている